



Sun™ Control Station 2.2

ソフトウェアのインストール

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-1407-10
2004 年 12 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com, Java, JavaServer Pages, JSP, JumpStart, Netra, Sun Cobalt, Sun Cobalt RaQ, Sun Cobalt CacheRaQ, Sun Cobalt Qube, Sun Fire, および Ultra は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Netscape および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun™ Control Station 2.2 Software Installation Guide
Part No: 819-0441-10
Revision A



目次

Sun Control Station ソフトウェアのインストールについて	2
Sun Control Station 2.2 インストール作業	3
インストール要件	3
コントロールステーションのソフトウェア要件	4
コントロールステーションのハードウェア要件	5
ポートの使用	6
Web ブラウザ	7
テスト済みのブラウザ	7
互換ブラウザ	7
対応表	8
Sun Control Station 2.2 ソフトウェアのインストール方法	9
管理対象ホストの準備について	10
hostinstall.pl スクリプトの実行	11
管理対象ホストの準備方法	11
V2.0 または V2.1 から管理対象ホストをアップグレードする方法	12
管理対象ホストの追加方法	12
Sun Control Station ユーザーインタフェースのアクセス方法	13
Sun Control Station 2.2 ソフトウェアのアンインストール方法	15
ユーザーマニュアルの表示方法	16
各国語版のマニュアル	16

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアのインストール

このマニュアルでは、専用サーバーに Sun™ Control Station 2.2 ソフトウェアをインストールし、管理対象の各ホストを準備するのに必要な情報について説明します。

このマニュアルには、次の作業が記載されています。

- 9 ページの「Sun Control Station 2.2 ソフトウェアのインストール方法」
- 11 ページの「管理対象ホストの準備方法」
- 12 ページの「管理対象ホストの追加方法」
- 12 ページの「V2.0 または V2.1 から管理対象ホストをアップグレードする方法」
- 13 ページの「Sun Control Station ユーザーインターフェースのアクセス方法」
- 15 ページの「Sun Control Station 2.2 ソフトウェアのアンインストール方法」
- 16 ページの「ユーザーマニュアルの表示方法」
- 16 ページの「ソフトウェアインストールのトラブルシューティング方法」

このマニュアルには、次の予備知識が記載されています。

- 2 ページの「Sun Control Station ソフトウェアのインストールについて」
- 3 ページの「Sun Control Station 2.2 インストール作業」
- 3 ページの「インストール要件」
- 7 ページの「Web ブラウザ」
- 8 ページの「対応表」

注 – 判明している問題点については、この Sun Control Station 2.2 ソフトウェアに付属の『Sun Control Station 2.2 リリースノート』を参照してください。

Sun Control Station ソフトウェアのインストールについて

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアパッケージは、コントロールモジュールを実行するエンジンであるコアフレームワーク、およびコントロールモジュール (AllStart、Health Monitoring、Inventory、Lights Out Management (LOM)、Software Installer) の 2 つのコンポーネントから構成されます。

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアパッケージは、ソフトウェアの実行とパッケージファイルの保存に特化した専用サーバーにインストールしてください。以下、この専用サーバーを「コントロールステーション」と呼びます。

注 – Sun Java™ Desktop System Configuration Manager ソフトウェアは、Sun Control Station 2.2 ソフトウェアと同一のサーバー上で安全に実行できます。

この Sun Control Station 2.2 ソフトウェアは、CD-ROM ドライブを搭載しているサーバーにインストールできるよう、CD-ROM で頒布されます。また、Sun Download Center (SDLC) からダウンロードして入手することもできます。

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアではオペレーティングシステムの特定の領域が変更されるため、サーバーで実行されているほかのプログラムが影響を受ける可能性があります。ソフトウェアをアンインストールする場合は、特定のプログラムとディレクトリが削除されます。

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアによって、OS に次の変更が加えられます。

- Java™ Development Kit 1.4.2 をインストール
- tomcat4 をインストールし、そのバージョンを使用
- tomcat4 のユーザーおよびグループを作成
- Web サーバーとして機能
- 複数の cron ジョブを挿入
- PostgreSQL をセットアップ
- /var に複数の logrotate ファイルを追加

Sun Control Station 2.2 インストール作業

表 1 に、Sun Control Station 2.2 ソフトウェアを専用サーバーにインストールし、管理対象のホストをセットアップするのに必要な作業の概要を示します。すべての作業を、記載されている順番に行なってください。

表 1 Sun Control Station 2.2 ソフトウェアインストール作業

	作業	手順
1	Sun Control Station 2.2 ソフトウェアを専用サーバーにインストールします。	9 ページの「Sun Control Station 2.2 ソフトウェアのインストール方法」を参照してください。
2	hostinstall.pl スクリプトを、管理対象のホストごとに実行します。	11 ページの「管理対象ホストの準備方法」を参照してください。
3	それぞれの管理対象ホストをコントロールステーションソフトウェアに追加します。	12 ページの「管理対象ホストの追加方法」を参照してください。

インストール要件

ここでは、Sun Control Station サーバーのソフトウェア要件とハードウェア要件を一覧表示します。

コントロールステーションのソフトウェア要件

表 2 コントロールステーションサーバーのソフトウェア要件

ソフトウェア要件	説明
オペレーティングシステム	Sun Control Station 2.2 ソフトウェアは、次のオペレーティングシステムでテスト済みです。 <ul style="list-style-type: none">• x86 上で稼動する Red Hat EL 2.1 ES/AS• x86 および x86_64 上で稼動する Red Hat EL 3 AS• x86 上で稼動する Red Hat ES• x86 上で稼動する Red Hat 8.0• x86 および x86_64 上で稼動する SuSe Linux 9.0
IP アドレス	Sun Control Station ソフトウェアをインストールするサーバーには、静的 IP アドレスが必要です。
必要なパッケージ	Sun Control Station 2.2 ソフトウェアをインストールする前に、次のパッケージをサーバーにインストールする必要があります。 <ul style="list-style-type: none">• Apache httpd 1.3 または 2.0.x• CGI、DBD-Pg、DBI、Digest コンポーネントを搭載した Perl 5.6 以降• postgresql、postgresql-lib、postgresql-server コンポーネントを搭載した PostgreSQL 7.2.x 以降 Allstart 向け <ul style="list-style-type: none">• anaconda-runtime-7.2-1• dhcp (バージョン 3 以降)• nfs-utils-0.3.3-3• tftp-server-0.17-14

注 – ソフトウェアインストールプログラムによって、表 2 に記載されているパッケージがインストールされているかどうかを確認されます。パッケージのいずれかが見つからなかった場合、ソフトウェアインストールプログラムは終了します。

コントロールステーションのハードウェア要件

表 3 コントロールステーションサーバーのハードウェア要件

ハードウェア要件	説明
専用サーバー	Sun Control Station 2.2 ソフトウェアを専用サーバー (コントロールステーション) にインストールします。
推奨構成	<p>Sun Control Station 2.2 ソフトウェアを実行するサーバーの推奨構成は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• 1 GHz 以上の x86 プロセッサ• 1 G バイトの RAM• RAID-1 (ミラー化) 設定になった 80 G バイトのハードディスクドライブ (HDD) 2 台• root ディレクトリ (/) に 1 G バイト以上の空きディスク容量• /var ディレクトリに 1 G バイト以上の空きディスク容量 <p>HDD にカスタムパーティションを作成するには、/scs ディレクトリと /var/tomcat ディレクトリを作成し、この 2 つのディレクトリになるべく多くの空き容量を割り当てます。</p>
最小構成	<p>Sun Control Station 2.2 ソフトウェアを実行するサーバーの最小構成は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• 600MHz の x86 プロセッサ• 512 M バイトの RAM• 40 G バイトのハードディスクドライブ 1 台• root ディレクトリに 1 G バイト以上の空きディスク容量• /var ディレクトリに 250 M バイト以上の空きディスク容量

ポートの使用

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアでできるように、コントロールステーションと管理対象ホストに次のポートが空いている必要があります。次の表に詳細を示します。

表 4 コントロールステーションと管理対象ホストによるポートの使用

ポート	プロトコル	使用先	注釈
22	TCP	SSH	<ul style="list-style-type: none">• 発信接続で使用するために、コントロールステーションのこのポートは開放しておく必要があります。• 着信接続で使用するために、管理対象ホストのこのポートは開放しておく必要があります。
68	UDP	DHCP	<ul style="list-style-type: none">• 着信接続で使用するために、コントロールステーションのこのポートは開放しておく必要があります。
69	UDP	TFTP	<ul style="list-style-type: none">• 着信接続で使用するために、コントロールステーションのこのポートは開放しておく必要があります。
80	TCP	HTTP (Apache)	<ul style="list-style-type: none">• 着信接続で使用するために、コントロールステーションのこのポートは開放しておく必要があります。• 発信接続で使用するために、管理対象ホストのこのポートは開放しておく必要があります。
623	UDP	IPMI	<ul style="list-style-type: none">• 発信接続で使用するために、コントロールステーションのこのポートは開放しておく必要があります。• 着信接続で使用するために、管理対象ホストのこのポートは開放しておく必要があります。
5434	TCP	PostgreSQL	<ul style="list-style-type: none">• コントロールステーションのこのポートは空き状態にしておく必要があります。
8027	TCP	tomcat4	<ul style="list-style-type: none">• コントロールステーションのこのポートは空き状態にしておく必要があります。ブラウザベースのユーザーインターフェースをシャットダウンするのに使用されます。
8080	TCP	tomcat4	<ul style="list-style-type: none">• 着信接続で使用するために、コントロールステーションのこのポートは開放しておく必要があります。ブラウザベースのユーザーインターフェースに使用されます。
8443	TCP	HTTPS (tomcat4)	<ul style="list-style-type: none">• 着信接続で使用するために、コントロールステーションのこのポートは開放しておく必要があります。ユーザーインターフェースへの SSL 接続に使用されます。

Web ブラウザ

Sun Control Station をブラウザベースのユーザーインターフェース (UI) から管理するには、cookie、階層式スタイルシート、および JavaScript™ ソフトウェアをブラウザで使用可能にする必要があります (これらの機能は通常、デフォルトで使用可能になっています)。

テスト済みのブラウザ

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアは、次の組み合わせの Web ブラウザおよびプラットフォームでテスト済みです。

Linux (Red Hat 7.3、Red Hat Enterprise Linux 2.1 ES)

- ブラウザ : Mozilla™ 1.2.1

Microsoft Windows (NT 4.0)

- ブラウザ : Internet Explorer 6.0

Solaris™ オペレーティングシステム (8.0 および 9.0)

- ブラウザ : Netscape™ 7.0

互換ブラウザ

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアは、次のブラウザで正常に動作します。

- すべてのプラットフォーム : Netscape 7.0、Mozilla 1.0.1 以降、Red Hat Enterprise Linux 3.0 ES、Mozilla Firefox 1.0
- Microsoft Windows 98/NT/2000 : Internet Explorer 6.0
- Mac OS X : Internet Explorer 5.2、Safari 1.0 (v85)、Camino 0.7、Mozilla 1.3.1

一般に、ブラウザのリリース製品バージョンはベータバージョンより信頼性が高く、またバージョンが新しいほど動作が安定しています。ブラウザプログラムの障害が Sun Control Station 上のデータに影響を及ぼすことはありません。

注 – Netscape 4.7x はサポートしていません。

対応表

コア SCS (Sun™ Control Station) ソフトウェアと各種モジュールは、さまざまなプラットフォーム上で実行でき、さまざまなオペレーティング環境をサポートしています。ここでは、SCS ソフトウェアの各種パーツによって提供されるサポートを詳しく説明します。

コントロールステーションサーバー

Red Hat	x86 上で稼動する EL 2.1 ES/AS x86 および x86_64 上で稼動する EL 3 AS x86 上で稼動する EL 3 ES x86 上で稼動する 8.0
SuSE	x86 および x86_64 上で稼動する SuSE linux 9.0

Health Monitoring モジュールおよび Inventory モジュール搭載の Client Core

Solaris	sparc および x86 上で稼動する Solaris 9
Red Hat	x86 上で稼動する 7.3、8.0、9 x86 上で稼動する EL 2.1 WS/AS/ES x86 および x86_64 上で稼動する EL 3 WS/AS x86 上で稼動する EL 3 ES
SuSE	x86 および x86_64 上で稼動する SuSE linux 9.0
JDS	x86 上で稼動する Java Desktop System Release 1/2

Software Installer モジュール

Red Hat	x86 上で稼動する 7.3、8.0、9 x86 上で稼動する EL 2.1 WS/AS/ES x86 および x86_64 上で稼動する EL 3 WS/AS x86 上で稼動する EL 3 ES
SuSE	x86 および x86_64 上で稼動する SuSE linux 9.0
JDS	x86 上で稼動する Java Desktop System Release 1/2

AllStart モジュール

Solaris	x86 上で稼動する Solaris 9
Red Hat	x86 上で稼動する 7.3、8.0、9 x86 上で稼動する EL 2.1 WS/AS/ES x86 および x86_64 上で稼動する EL 3 WS/AS x86 上で稼動する EL 3 ES

SuSE	x86 上で稼動する SuSE Linux Professional 8.2 x86 および x86_64 上で稼動する SuSE Linux Professional 9.0、9.1
JDS	x86 上で稼動する Java Desktop System Release 2
LOM モジュール	
Red Hat	x86 上で稼動する 7.3、8.0、9 x86 上で稼動する EL 2.1 WS/AS/ES x86 および x86_64 上で稼動する EL 3 WS/AS x86 上で稼動する EL 3 ES
SuSE	x86 および x86_64 上で稼動する SuSE linux 9.0

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアのインストール方法

インストール方法を次から選択します。

- Sun Control Station 2.2 ソフトウェアを CD-ROM からインストールします。
- SCS2.2 ソフトウェアを Sun Download Center からダウンロードします。手順については、『Sun Control Station 2.2 リリース』を参照してください。

SCS2.2 ソフトウェアを CD-ROM からインストールするには

1. Sun Control Station 2.2 ソフトウェアに使用する専用サーバーを選択します。

その専用サーバーが推奨要件を満たしていることを確認します。3 ページの「インストール要件」を参照してください。インストールプログラムによって、記載されているソフトウェアコンポーネントがインストールされているかどうかを確認されます。いずれかのコンポーネントが見つからなかった場合、インストールプログラムは終了します。

2. root ユーザーになります。次を入力します。

```
su root
```

3. CD をマウントします。

システムの fstab ファイルに次の行がある場合、

```
/dev/cdrom /cd iso9660 ro,user,noauto,unhide
```

次のどちらかのコマンドを使用して CD をマウントできます。

```
mount /dev/cdrom
```

または

```
mount /cd
```

4. <cd_mount> ディレクトリに移動します。次を入力します。

```
cd <cd_mount>
```

5. インストールスクリプトを実行します。次を入力します。

```
/bin/sh ./install/install
```

インストールプログラムによって、Sun Control Station 2.2 のソフトウェアライセンス契約が表示されます。このソフトウェアライセンス契約をよくお読みください。ソフトウェアライセンス契約の表示に続き、次のメッセージが表示されます。

Accept (A) / Decline (D)?

インストールを続行するにはキーボードの **A** キーを押します。インストールを中止するには、**D** キーまたは **Q** キーを押します。

インストールの進行に合わせて、情報メッセージやインストールに関するメッセージが画面に表示されます。

インストールが完了すると、その旨を示すメッセージが表示されます。

注 – インストールプロセス中に生成されたログファイルは、以下に保存されます。
/var/log/scs-install.log

6. 管理対象の各ホストを準備します。

11 ページの「管理対象ホストの準備方法」を参照してください。

管理対象ホストの準備について

前バージョンの Sun Control Station とは異なり、Sun Control Station 2.2 にはクライアントごとに特殊用途のエージェントをインストールする必要がありません。ただし、クライアントを管理できるようにする前にいくつかの準備が必要です。

このプロセスは、Sun Control Station ソフトウェアのインストール中に生成される `hostinstall.pl` というスクリプトによって自動化されます。

この `hostinstall.pl` スクリプトは、特定のコントロールステーションのネットワーク構成に Sun Control Station 2.2 をインストールすると自動的に設定されます。この `hostinstall.pl` スクリプトは、コントロールステーションの Web サーバーから HTTP 経由で入手可能となります。

コントロールステーションからホストを管理するには、コントロールステーション用に生成された `hostinstall.pl` のコピーを、管理対象ホスト上で実行する必要があります。

1 台のホストを複数のコントロールステーションから管理するには、複数の `hostinstall.pl` スクリプトのコピーを実行する必要があります。つまり、1 台のコントロールステーションで 1 つのコピーを実行する必要があります。

hostinstall.pl スクリプトの実行

`hostinstall.pl` スクリプトをコントロールステーションの Web サーバーから取得するには、`wget` などの標準のコマンド行ツールを使用できます。この `hostinstall.pl` スクリプトは、パス `/pub/hostinstall.pl` で利用できます。

たとえば、ホスト名 *mycontrolstation* から TCP/IP 経由でコントロールステーションにアクセスできる場合、`hostinstall.pl` スクリプトは次の URL から取得できます。

```
http://mycontrolstation/pub/hostinstall.pl
```

この `hostinstall.pl` スクリプトは、SCP や FTP といった同類のツールを使用してホストに転送することも可能です。このスクリプトは、コントロールステーションの以下のパスに格納されています。

```
/var/tomcat4/web/pub/hostinstall.pl
```

このマニュアルの手順では、`hostinstall.pl` スクリプトが現在作業中のディレクトリに置かれていると想定して説明していきます。

管理対象ホストの準備方法

管理対象ホストの準備については、10 ページの「管理対象ホストの準備について」を参照してください。Sun Control Station 2.0 または Sun Control Station 2.1 から管理対象ホストをアップグレードするには、12 ページの「V2.0 または V2.1 から管理対象ホストをアップグレードする方法」を参照してください。

1. `hostinstall.pl` スクリプトをコントロールステーションからホストに転送します。

詳細については、11 ページの「`hostinstall.pl` スクリプトの実行」を参照してください。

2. `hostinstall.pl` スクリプトを実行可能形式にします。次を入力します。

```
chmod 700 ./hostinstall.pl
```

3. `hostinstall.pl` スクリプトを実行します。次を入力します。

```
./hostinstall.pl install
```

管理対象ホストの準備状況が表示されます。

4. 準備が整った各ホストを Sun Control Station ソフトウェアに追加します。
12 ページの「管理対象ホストの追加方法」を参照してください。

V2.0 または V2.1 から管理対象ホストをアップグレードする方法

インストールプロセス時に、Sun Control Station 2.0 および 2.1 にクライアントエージェントが使用されているかどうか、`hostinstall.pl` スクリプトによって確認されます。Sun Control Station 2.2 でホストを管理するには、古いエージェントソフトウェアを削除する必要があります。

古いクライアントエージェントを削除してセットアップを続行する前に、`hostinstall.pl` スクリプトによって確認を求められます。このステップは無視して、確認を待たずに古いエージェントを削除することもできます。

- 確認を待たずに古いエージェントを削除するには、次を入力します。

```
./hostinstall.pl -y install
```

管理対象ホストの SSH ホストキーの確認プロセスを軽減するため、Sun Control Station ソフトウェアでは、ネットワーク上のマシンから公開ホストキーを自動的に取得することができます。

そのホストの SSH ホストキーの指紋がすでにわかっている場合、そのホストを管理対象としてコントロールステーションに直接追加できます。

管理対象ホストの追加方法

セキュリティ対策として、管理対象のホストを追加する前に、Sun Control Station 2.2 ソフトウェアによって管理対象ホストの識別情報を確認するようメッセージが表示されます。これによって、介入者攻撃や DNS なりすましなどにより、不注意に個人情報が漏れる危険性をなくします。Sun Control Station 2.2 は、ホストの SSH ホストキーによってホストを識別します。

そのホストの SSH ホストキーの指紋がすでにわかっている場合、スキャンする手順を飛ばし、そのホストを管理対象としてコントロールステーションに直接追加できます。そうでない場合は、次のいずれかの方法で管理対象ホストを追加することができます。

- 指紋自動スキャン

- 1 台ずつホストを手動で追加
- 管理対象ホストをテキストファイルから追加
- 管理対象ホストを追加するには、Sun Control Station の UI を使って、『Sun Control Station 2.2 管理者マニュアル』の手順に従ってください。

Sun Control Station ユーザーインタフェースのアクセス方法

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアを専用サーバーにインストールしたら、ブラウザベースのユーザーインタフェース (UI) から各機能を利用できます。

Sun Control Station の UI にアクセスするには、次の手順に従います。

1. ブラウザのウィンドウを開き、次の URL を入力します。

`http://<IP_address_of_server>`

注 – SSL 接続を使用しない場合は、次の URL を入力します。

`http://<IP_address_of_server>:8080/sdui/`

「Login」ページが表示されます (図 1 を参照)。

ブラウザのウィンドウから UI にアクセスできない場合は、16 ページの「ソフトウェアインストールのトラブルシューティング方法」を参照してください。

2. ユーザー名に「admin」、パスワードに「admin」と入力します。

注 – ログインしたら、できるだけ早く admin パスワードを変更することをお勧めします。『Sun Control Station 2.2 管理者マニュアル』の第 2 章「パスワード」の節を参照してください。

3. 「Login」をクリックします。

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアのメインのスプラッシュページが表示されます (図 2 を参照)。

admin パスワードは「Station Settings」メニューから変更できます。詳細は、『Sun Control Station 2.2 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。



図 1 Sun Control Station のログインページ

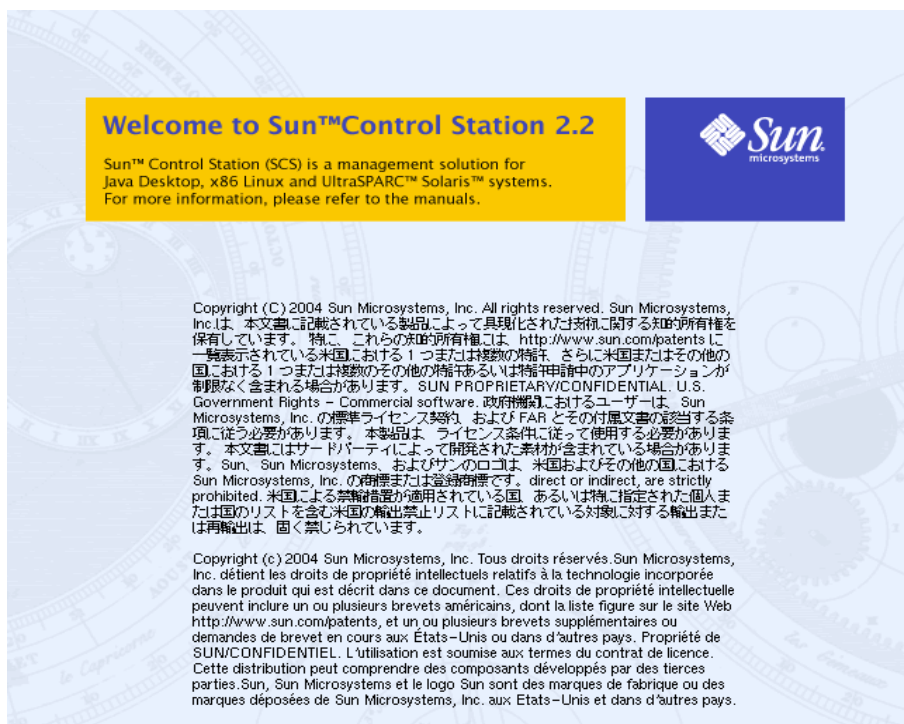


図 2 メインのスプラッシュページ

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアのアンインストール方法

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアをアンインストールすると、ソフトウェアのサーバー側コンポーネント、およびコントロールモジュールがすべてサーバーから削除されます。

注 – アンインストールプログラムでは、エージェントや、ソフトウェアまたはコントロールモジュールのクライアント側コンポーネントは削除されません。

注 – Sun Control Station 2.2 ソフトウェアをアンインストールするときは、サーバーから tomcat および jdk のほか、/scs/backups に格納されているコントロールステーションの状態のバックアップ、/scs/logs に格納されているコントロールステーションの活動のログを削除するかどうかの確認を求められます。

Sun Control Station 2.2 ソフトウェアをアンインストールするには、次の手順に従います。

1. root ユーザーになります。次を入力します。
`su root`
2. uninstall ディレクトリに移動します。次を入力します。
`cd /scs/uninstall`
3. アンインストールプログラムを実行します。次を入力します。
`./uninstall`
4. アンインストールを続行するかどうかの確認を求められます。デフォルトは N (いいえ) です。
Y キーを押します。
5. 別のステップで、tomcat および jdk も削除するかどうかの確認を求められます。これらのプロンプトのデフォルトは Y (はい) です。
各プロンプトで、Y キーまたは N キーを押します。
Y キーを押した場合は (デフォルト値を使用)、そのコンポーネントの RPM またはパッケージが削除されます。
N キーを押した場合、そのコンポーネントの RPM またはパッケージは削除されません。
6. アンインストール処理が続きます。

ユーザーマニュアルの表示方法



UI から、PDF 形式のユーザーマニュアルにアクセスできます。Sun Control Station にサン以外のソフトウェアをインストールした場合は、そのソフトウェアに関連するマニュアルも利用できます。

ユーザーマニュアルの PDF ファイルを表示するには、次の手順に従います。

1. 右上のヘルプアイコンをクリックします。
別のブラウザウィンドウが開き、使用可能な PDF ファイルのリストが表示されます。
2. PDF ファイルのリンクをクリックします。
PDF ファイルをブラウザウィンドウで開くか、個人のコンピュータに保存できます。

各国語版のマニュアル

英語以外の言語の Sun Control Station 2.2 ソフトウェアのユーザーマニュアルを表示するには、次にアクセスしてください。

<http://docs.sun.com>

ソフトウェアインストールのトラブルシューティング方法

インストールが完了した後に、問題が発生する場合があります。

ブラウザウィンドウから UI にアクセスできない場合は、tomcat4 がサーバーで起動していない可能性があります。tomcat 4 を再起動するには、次の手順に従います。

1. tomcat4 を再起動します。
 - a. ssh で Sun Control Station サーバーにログインします。
 - b. root ユーザーになります。次を入力します。
`su -`
 - c. tomcat4 を終了します。次を入力します。
`/etc/init.d/tomcat4 stop`

- d. tomcat4 を起動します。次を入力します。

```
/etc/init.d/tomcat4 start
```

- e. 複数の Java プロセスが実行されていることを確認します。次を入力します。

```
/bin/ps -ef | grep java
```

実行中の Java プロセスがない場合は、手順 2 と 3 に進みます。

2. catalina.out ファイルのアクセス権を確認します。

UI がまだ表示されない場合は、/var/tomcat4/logs/catalina.out ファイルのアクセス権を確認します。

ファイルの所有者およびグループはどちらも tomcat4 である必要があります。tomcat4 でない場合は、次の手順に従って tomcat4 を設定します。

- a. ssh で Sun Control Station サーバーにログインします。

- b. root ユーザーになります。次を入力します。

```
su -
```

- c. ファイルの所有者を変更します。次を入力します。

```
chown tomcat4:tomcat4 /var/tomcat4/logs/catalina.out
```

- d. tomcat4 を終了します。次を入力します。

```
/etc/init.d/tomcat4 stop
```

- e. tomcat4 を起動します。次を入力します。

```
/etc/init.d/tomcat4 start
```

3. UI がまだ表示されない場合は、/var/lock/subsys/tomcat4 ファイルがあるかどうかを確認します。

- a. /var/lock/subsys/tomcat4 ファイルがある場合は、これを削除します。

- b. 現在実行されている Java プロセスをすべて終了します。

- c. tomcat4 を終了し、再起動します。

